

インターバンクの声（2014年7月15日）

ポルトガル大手銀行の経営不安に対する懸念が和らいでもユーロ買いへの動意が薄かったアジア勢に対し「どうして買わないんだ」とばかりにユーロを買い込んだ欧州の早起き組だったが、ニューヨーク市場では結局元の水準近くに戻ってしまった。もっともニューヨーク市場終盤の下げは、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁がユーロ高は域内の持続的な景気回復にとってリスクになるとの考えを示したことによるもので、今後は他の ECB メンバーからも同じような見方が示されれば、この辺りのレベルがユーロの高値圏になってくるのかも知れない。

ドル円は101円60銭台までドル買いが進んだが、それ以上の反応は、日銀の金融政策決定会合というよりイエレン FRB 議長の上院での証言待ってからになったようだ。一度、緩和縮小の終了後の利上げまでの期間が6カ月程度と口がすべってしまったイエレン議長だが、その後はひたすら低金利政策の期間が暫く続くと強調しているが、月初の強い雇用統計が示された後だけに、利上げに傾くような証言となるか注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。